

第四次福島町社会教育中期計画 の自己評価

(H17～H21のうちH20まで)

H18～H20の主な社会教育及び体育事業

★社会教育★

【1 顕彰】

番号	事業名	H18	H19	H20
1-1	福島町スポーツ・文化賞表彰式	4人	9人	6人

【2 幼児・青少年教育】

番号	事業名	H18	H19	H20
2-2	福島町青少年の主張大会	55人	74人	102人
2-3	わんぱく教室(高齢者学級異世代交流)	59人	61人	52人
2-5	四町交流ふれあいキャンプ事前学習会	34人	50人	31人
2-6	四町交流ふれあいキャンプ	34人	50人	31人
2-7	福島町成人式及び成人祭	85人	75人	81人
2-8	地域子ども会研修会(夏休みキッズスクール=英会話、野外体験ほ	14人	-	-
2-8	" (冬休みキッズスクール=七宝焼き、スポーツレクほか)	12人	-	-
2-8	" (少年少女将棋教室)	-	-	14人
2-8	" (親子木工クラフト教室)	-	-	14人
2-9	ブックスタート事業	15人	22人	11人

【3 成人・女性・高齢者教育】

番号	事業名	H18	H19	H20
3-1	高齢者学級 最大→	163人	155人	147人
3-2	生活講座 小計→	120人	75人	185人
	◆春の講座			
	①春のガーデニング講座	15人	16人	-
	②ワイン文化講座	14人	-	-
	③英会話講座	10人	8人	-
	④手づくりパン講座	-	11人	-
	◆秋の講座			
	①手づくりパン講座	17人	7人	18人
	②秋のガーデニング講座	14人	9人	26人
	③わら細工講座	12人	-	-
	④英会話講座	11人	8人	-
	⑤ワイン文化講座	17人	-	-
	⑥パソコン講座	10人	-	-
	⑦手づくり石鹸講座	-	8人	-
	⑧しめ縄講座	-	8人	-
	⑨絵手紙講座	-	-	11人
	⑩藤手芸講座	-	-	15人
	⑪布ぞうり講座	-	-	10人
	◆冬の講座			
	①自然食の料理教室	-	-	12人
	②しめ縄講座	-	-	12人
	③ドライフラワーリース講座	-	-	16人
	④手づくり豆腐講座	-	-	30人
	⑤手づくりパン講座	-	-	13人
	⑥ワイン文化講座	-	-	22人
3-3	地域生活学級 小計→	126人	162人	103人
	◆白符地区(ワイン講座)	17人	-	-
	◆上町地区(お雑さま&マフラー作り)	15人	-	-
	" (ちりめん小物作り)	-	14人	-
	◆日向地区(石鹸づくり&救急法)	15人	-	-
	" (手打ちうどん、石鹸作り)	-	19人	-
	" (石鹸作り&書道教室)	-	-	20人
	◆漁協福島地区(気功・太極拳講座)	11人	-	-
	" (ストレッチ体操)	-	25人	-
	" (漬物づくり)	-	-	13人
	◆月崎睦婦人会(かつぼれ踊り)	20人	-	-
	" (カラオケ講座)	-	14人	-

右の人数は実人数
であり、複数回開催
したものの延べ人数

番号	事業名	H18	H19	H20
	地域生活学級(つづき)			
	◆新栄町町内会(べこ餅作り)	9人	-	-
	〃 (シフォンケーキ作り)	-	11人	-
	◆漁協吉岡地区(わら細工教室)	15人	-	-
	〃 (着付け教室)	-	17人	-
	〃 (フォークダンス)	-	-	15人
	◆千軒地区(リズム体操、毛糸小物作り)	17人	-	-
	〃 (ちゃんちゃんこ作り)	-	11人	-
	〃 (衣服リフォーム)	-	-	15人
	◆ひまわり会(そばうち&ソシアルダンス)	7人	-	-
	〃 (ダンス&パン菓子)	-	-	10人
	◆館崎1婦人会(踊り)	-	29人	-
	◆太陽女性会(シフォンケーキ作り)	-	9人	-
	◆緑町町内会(わら細工)	-	13人	-
	◆農協(パン&焼き菓子)	-	-	16人
	◆三岳第1地区(舞踊)	-	-	14人

【4 読書活動の推進】

番号	事業名	H18	H19	H20
4-1	図書貸出	貸出+閲覧→ 7,854人	9,353人	9,093人
4-2	図書移動バス事業	貸出+閲覧→ 341人	772人	805人
4-3	読書感想文・感想画コンクール	文+画→ 328点	370点	370点

【5 芸術・文化】

番号	事業名	H18	H19	H20
5-1	幼児人形劇鑑賞会	95人	80人	88人
5-2	子ども芸術鑑賞事業	246人	251人	228人
5-3	町民文化祭	2,040人	2,370人	1,611人

★社会体育★

【1 幼児・青少年教育】

番号	事業名	H18	H19	H20
1-1	ジュニアスイミングスクールA、B	44人	48人	41人
1-3	少年少女フットサル大会	103人	108人	147人
1-5	少年少女バスケットボール大会	62人	66人	71人
1-6	少年団体力テスト、運動適正テスト	-	58人	45人
1-7	雪上レクリエーション大会	38人	52人	-

【2 成人・女性・高齢者教育】

番号	事業名	H18	H19	H20
2-1	吉岡幼・小・中・町民大運動会	123人	192人	120人
2-2	町民ゲートボール大会	23人	20人	15人
2-3	水泳救急法講習会	14人	14人	16人
2-4	アクアビクス教室&アクアウォーキング教室	-	7人	10人
2-5	爽快アクアビクス教室(補助事業)	-	-	32人
2-6	教育長杯パークゴルフ大会	36人	37人	48人
2-7	いきいき町内会パークゴルフ大会	51人	36人	40人
2-9	千代の富士杯パークゴルフ大会	98人	81人	70人
2-10	町長杯争奪パークゴルフ大会	55人	45人	47人
2-11	渡島管内ソフトバレーボール大会	137人	137人	111人
2-12	教育長杯争奪町民ソフトバレーボール大会	67人	45人	86人
2-16	南北海道駅伝競走大会	124チーム	126チーム	124チーム
2-18	町民なわとび大会	98人	128人	165人

第2章 社会教育推進の現状・問題点・課題及び具体的施策

現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で取り組んでいる取組
<p>対象人口 0～14歳：665名 ・地域子ども会リーダー研修 ・わんぱく教室 ・芸術鑑賞会 ・芸術鑑賞出し、移動図書バス事業 ・青少年の主張大会 ・青函トンネル夢と友情の旅 ・北海道ジュニアセミナー ・巡回小劇場 ・4町少年野外活動リーダー養成交流会 ・読書感想文・感想コンクール</p>	<p>・自主的、主体的な取組みの不足 ・自主体験活動の不足 ・完全週5日制実施による「ゆとり」の時間の有効活用 ・地域住民から行政への現実と大きな開きのある要求課題</p>	<p>・地域に対しての社会教育に関する広報の方法 ・福島町の自然や歴史・文化等、地域の特性を生かした自然体験活動の実施 ・学校、地域、行政間での連携の促進 ・事業の精査 ・各学校からの要求課題の把握</p>	<p>・親子干渉そば打ち体験教室 ・加工場スルメづくり見学会 ・福島～上野～函館を結ぶ、親子で学ぶ津軽海峡と青函トンネルの歴史を探る旅 ・親子マジカメ写真展Goin!福島 ・福島新聞GIP ・各リーダー養成研修会 ・ブックスタート事業 ・連携事業 ・町広報、チラシ等の各戸配布の利用</p>	<p>・専業主婦 ※具体的施策には夢があるが、実現に至っていない</p> <p>●ほとんど4年前の事業と同様であり、新規事業を起すには、全体の事業量の調査等が必要</p>
<p>福島町地域子ども会育成連絡協議会 館占つぐみ子ども会 月田町はやぶさ子ども会 吉岡2しらさぎ子ども会 丸山やまがら子ども会 線町カナリヤ子ども会 新栄町つくばい子ども会 三岳1つばめ子ども会 7団体、317名 ・福島町PTA連合会 ・少子化による組織率の低下</p>	<p>・少子化や地域の人口差 ・PTA連合会総会への出席率の低下 ・町のバスの運行スケジュールに関する問題 ・指導者の不足</p>	<p>・地域住民にとつて参加しやすい事業の開設 時間設定</p>	<p>・学校、家庭、地域の一体化 ・体育館や図書館等の社会教育施設の効果的な利用条件の整備</p>	<p>→ 異体性に欠ける どのようになれば「一体化」が可能か示されていない。</p> <p>→ 「団体育成」のために施設をどのように利用させるのが効果的か、追求不足である</p> <p>●地域子ども会は、現在3地区のみが加入 他の地区は子どもが少ない等の理由で解散、休止状態…子どもが多い新栄町は何か？（育成者=親）の役割のなり手不足</p>
<p>・地域子ども会リーダー養成研修会 ・四町少年野外活動リーダー養成交流会</p>	<p>・指導者の不足 ・子育てをめぐめる環境の変化</p>	<p>・リーダーの養成 ・家庭教育支援施設の実施</p>	<p>・町内の学校を対象としたリーダー養成研修会の実施 ・他団体（青少年赤十字等）とのリーダー養成研修会開催等の連携強化 ・リーダー養成研修会への輪番制での参加 ・親子共団体教育事業に関するプログラムの作成及び事業への参加の促進</p>	<p>※幼児、少年教育分野における「リーダー」や「指導者」とは誰を指しているのか この前では王子子ども会のことを取り上げているが、リーダーはジュニアリーダー、つまり中学生や高校生のことをいい、彼らが地域の子ども会に積極的に入って行って小学生以下の指導をする。「中学生を対象にリーダー養成研修会を行うのは、小学生になつたら子どもたちの世話を焼くという年齢があるから、実際には子供会も育成会も地味でいる中」</p> <p>●「指導者育成」については再考を要す ●「課題」の一つに「家庭教育支援…」は何を指すのか</p>
<p>・各施設、設備を生かした効果的な学習環境の活用 ・福祉センター図書室 ・総合体育館遊戯室 ・町民プール ・学校開放</p>	<p>・利用者本位の施設の運営 ・町外の施設への利用者の流出</p>	<p>・施設の利用率の増加 ・地域住民が積極的に利用でき、また住民の立場に立った、利用者のニーズに対応することができる弾力的な運営 ・元々の小中高の特色を生かした、学校や地域にある既存の施設の活用</p>	<p>・講演会の実施 ・各分野でのエキスパートを講師に招いて福島町内の事業の実施 ・近郊や市町村内の他の機関、団体との事業の共同開催 ・子ども読書活動の推進整備</p>	<p>※学習条件の整備で「講演会の開催等」はH20に森づくりセンターの協力を得て実施したが、今後の広がりに期待 → 事業なし → 継続中</p>

◆子ども連を趣向に育成するため、スポーツ少年団以外では「地域子ども会」が有効で、地域のクリスマスやキャンプ、スイカ割りなど幅広い活動が可能であり、遊びを通して社会生活や規範を知ることもできる。また、中学生や高校生も地域のお兄さん、お姉さんとしてジュニアリーダーなどとなることにより、自分自身の成長に大いに役立ちます。

◆しかし、実際には子ども会自体がほとんど減って行き、子どもは普通一学校一家庭、の行き来が主で地域との関わりが減っています。

◆スポーツ少年団加入者や熟練の子どももいて、「子ども会どころじゃない」といふ部分で現状に任ずるか、或いは子ども会ではできないが、教員の事業を担わせて、それに参加させる、という方策を探るか、スタッフの現状からどのような方策が考えられるか。

第2節 青年教育

領域	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で取り組んでいる課題
<p>対象人口 15～39歳、1,445名 ・町民文化祭 ・IT講習会 ・各種生活講座 ・成人式典、前夜祭</p> <p>学習機会</p>	<p>狭い人間関係 ・物質的に満たされている環境の中での目的意識の欠如 ・コミュニケーション能力の低下 ・主体性の欠如 ・地域のリーダーの不在 ・地域の伝統・文化の伝承活動の停滞</p>	<p>ボランティア活動の活性化 ・共通理解が得られる仲間との活動 ・リーダーの育成 ・財源、他団体からの補助金・助成金を確保するための情報提供の工夫 ・各学校からの要求課題の把握</p>	<p>「いらっしやい運動の各産品だよ！」 ・「地球学校開放講座」 ・各団体、機関が実施する研修会等へ派遣する際の人物の選定方法の改善 ・事業の効果による中止、休止の検討</p>	<p>→ 施策の意味が不明。 → IT講習会の意味が… → 青年向けの派遣研修がほとんどない</p> <p>●課題の「学校からの要求課題」とは？ 青年教育分野で学校が要求する課題？</p> <p>●分析に一貫性がないことから、評価の仕方が困難</p> <p>若者を集めて、何か興味のあるものへと導く手立てが必要である。左側の施策の1番目は、そのためのイベントのような気がするが、実施されていないため内容も不明である。(団体育成で事業種交流などあることから、異業種</p>	<p>●青年層を15歳～39歳と位置づけているが無理はないか？ ●青年の団体をばなせ必要かを問い直す必要があるのでは？ ●OB会…その前の段階か。OB会ができても指導すべき対象(若者の集まり)がなければ… ●気軽な集まりをどのように作るか</p> <p>往時は、成人式実行委員を継続加入させ、青年組織を盛り上げてきた経過があるが、成人式アンケート等に「福島はつまらない」意見が多いことから、ある程度“健全な”形で集まる(交流する)機会があれば、風向きは変わる可</p>
<p>商工会青年部 ・協賛青年部 ・団体育成の具体的な取組の確立化</p> <p>団体育成</p>	<p>資金面、予算財源及び人的資源の確保 ・イベントの開催回数が多いが原因によるイベント疲れ</p>	<p>青年団OB会の発足とそこからの回遊型等のノウハウの獲得 ・気軽な集まりからサークルへの育成</p>	<p>・異業種青年団交流会</p>	<p>●青年層を15歳～39歳と位置づけているが無理はないか？ ●青年の団体をばなせ必要かを問い直す必要があるのでは？ ●OB会…その前の段階か。OB会ができても指導すべき対象(若者の集まり)がなければ… ●気軽な集まりをどのように作るか</p> <p>往時は、成人式実行委員を継続加入させ、青年組織を盛り上げてきた経過があるが、成人式アンケート等に「福島はつまらない」意見が多いことから、ある程度“健全な”形で集まる(交流する)機会があれば、風向きは変わる可</p>	<p>●青年層を15歳～39歳と位置づけているが無理はないか？ ●青年の団体をばなせ必要かを問い直す必要があるのでは？ ●OB会…その前の段階か。OB会ができても指導すべき対象(若者の集まり)がなければ… ●気軽な集まりをどのように作るか</p> <p>往時は、成人式実行委員を継続加入させ、青年組織を盛り上げてきた経過があるが、成人式アンケート等に「福島はつまらない」意見が多いことから、ある程度“健全な”形で集まる(交流する)機会があれば、風向きは変わる可</p>
<p>団体活動の指導者不在</p> <p>指導者育成</p>	<p>指導者の不足 ・リーダーの不足</p>	<p>指導者・リーダーの地域での発掘・養成</p>	<p>他団体との交流 ・講習会の参加の奨励 ・組織化の支援</p>	<p>青年組織のリーダーは組織の内部の者であるから、組織を作りながらの養成となる。 自働した組織でありながら、未成熟であることが成長の伸びしろを際立たせるポイントであり、ある程度中・長期的なスパンで育成を図る可</p>	<p>●若者が利用しやすい施設は、遅い時間まで利用でき、ある程度自由度の高いものと思われれば、加減や管理上の問題をどうクリアするかが課題となる</p>
<p>福祉センター ・体育館 ・図書館 ・学校開放</p> <p>学習条件整備</p>	<p>地域住民が利用しにくい運営の美観 ・町外の施設への利用者の流出</p>	<p>利用者のニーズの把握</p>	<p>・アンケートの実施</p>	<p>●若者が利用しやすい施設は、遅い時間まで利用でき、ある程度自由度の高いものと思われれば、加減や管理上の問題をどうクリアするかが課題となる</p>	<p>●若者が利用しやすい施設は、遅い時間まで利用でき、ある程度自由度の高いものと思われれば、加減や管理上の問題をどうクリアするかが課題となる</p>

第3節 成人教育

現状	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で振り返っての評価
<p>対象人口 20～64歳:3,476名</p> <p>各種生活講座 子育てテレホンサービス 町民文化祭 IT講習会 地域生活学級</p>	<p>各種事業への理解や参加意欲の体感化が見られる</p> <p>成人向けの学習機会が不十分</p> <p>学習内容の要望の多様化に伴う対応が不十分</p> <p>休日の学習機会が不十分</p>	<p>学習ニーズの把握と魅力ある事業が必要である</p> <p>町づくりの主体者として、自主的に活動するような啓発普及事業が必要である</p>	<p>住民の要望に対応した教室、講座等の開設</p> <p>学習情報のホームページ等での提供と学習相談体制整備拡充</p> <p>ボランティア活動講習会</p> <p>各種生活講座</p> <p>子育てテレホンサービス</p> <p>町民文化祭</p> <p>図書貸出、移動図書館</p> <p>IT講習会</p> <p>地域生活学級</p> <p>学校開放</p>	<p>→なんとかやっている</p> <p>→できていない</p> <p>→なし</p> <p>→なんとかやっている</p> <p>→廃止した</p> <p>→やっている</p> <p>→廃止している</p> <p>→廃止した</p> <p>→充実してきた</p> <p>→PTA段階で活発</p>	<p>対象が「成人」であり、そのすべてをカバーして事業を全うすることは不可能。「出来る範囲」でニーズの高いものへ重点を置かざるを得ないのでは。図書などは別途講座活動の推進と項目を新設したほうが良いかも。</p>
<p>文化団体協議会 加盟団体20団体 会員254名</p>	<p>高齢化、固定化が進み活動がマンネリ化している</p>	<p>生涯学習社会に向けた関係機関の協力体制整備</p>	<p>団体相互の活動交流</p> <p>各組織団体と関係機関の連携強化</p>	<p>成人団体として「文団連」のみを捉えているようだが、例えば平野地域活性化委員会や旧白符小学校の活用団体など、多様な団体が存在し活動は活発と評価してよい。</p> <p>相互に連携はあっても良いと思うが、必要となった時には教養が仲立ち役となればよい。</p>	
<p>生涯学習指導者登録</p>	<p>若年層の指導者が不足</p>	<p>計画的に指導者養成が必要</p>	<p>指導者研修会開催</p> <p>各種研修会、講習会へ派遣</p> <p>生涯学習指導者登録</p>	<p>生涯学習指導者登録者からは、83%の活用率。</p>	
<p>福祉センター、図書館 学校開放</p>	<p>生涯学習推進のための情報が充分提供されていない</p>	<p>生涯学習推進体制の整備が必要</p>	<p>学習推進計画の策定</p> <p>学習推進体制整備</p> <p>学習に関する情報の提供</p> <p>社会教育施設の効果的な利用条件整備</p>	<p>「学習推進計画の策定と合わせたい」という人がいると思うが、そういうニーズをどう集約し学習機会の提供ができるか。</p> <p>100%にはならないことも含めて、この際検討する必要がある。</p>	

第4節 女性教育

現状	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で振り返っての評価
<p>対象人口 20～64歳:1,720名</p> <p>各種生活講座 子育てテレホンサービス 町民文化祭 IT講習会 地域生活学級</p>	<p>事業は多彩であるが参加者は固定化しつつある</p> <p>他町村との交流が不足</p>	<p>町内会等地域活動の推進を図る必要がある</p> <p>女性の視点にたった学習機会が必要</p> <p>女性が社会で十分能力を発揮し多彩なキャリアを形成するための支援を行う</p>	<p>各種講習、研修会</p> <p>情報の提供</p> <p>地域間交流</p> <p>ボランティア活動、地域社会活動に関する学習機会の拡充</p> <p>地域生活学級</p> <p>各種生活講座</p> <p>子育てテレホンサービス</p> <p>町民文化祭</p> <p>図書貸出、移動図書館</p> <p>IT講習会</p> <p>学校開放</p>	<p>女性教育を成人教育とは別に項立してしたことの違いは何かあると思うが、学習機会の提供を見ても成人教育の中心なものであり、前節の現状から施策等と分離しなくてもよいのではないかと。</p> <p>女性団体連絡協議会は、平成21年3月で解散し、渡島からも退会した。</p> <p>また、新しい連携や交流を目指す組織づくりが進められており、町内会のみでの連携組織を目標としている。</p> <p>新組織づくりとともに次第に必要となるが、徐々に進めなければ相互反応が出やすいので留意を要する。</p> <p>何によらず、情報提供は重要である</p>	
<p>福島町女性団体連絡協議会 加盟団体6団体229名</p>	<p>地域婦人会会員の高齢化が進んでいる</p>	<p>団体の活動をPRし加入促進を図る必要がある</p>	<p>女性団体活動支援</p> <p>女性団体への若年層加入促進</p>	<p>女性団体連絡協議会は、平成21年3月で解散し、渡島からも退会した。</p> <p>また、新しい連携や交流を目指す組織づくりが進められており、町内会のみでの連携組織を目標としている。</p> <p>新組織づくりとともに次第に必要となるが、徐々に進めなければ相互反応が出やすいので留意を要する。</p> <p>何によらず、情報提供は重要である</p>	
<p>女性活動指導者研修会 生涯学習指導者登録</p>	<p>指導者が固定化し後継者不足</p>	<p>ボランティア活動等の指導者、リーダーの養成</p>	<p>研修会、講習会参加</p> <p>生涯学習指導者登録</p>	<p>→研修会、講習会参加</p> <p>→生涯学習指導者登録</p>	
<p>福祉センター、健康づくりセンター、各地区 会館 学校開放</p>	<p>地域間団体の情報が充分提供されていない</p>	<p>情報の提供、収集が必要</p>	<p>学習内覧の開催準備</p>	<p>→何によらず、情報提供は重要である</p>	

第5期 高齢者教育

現状	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で振り返っての評価
<p>対象人口 65歳、1,855名</p> <p>高齢者学級 ・町民文化祭 ・各種生活講座 ・地域生活学級</p> <p>学習機会</p>	<p>高齢者人口の割合からすると高齢者学級への参加が少ない</p>	<p>豊富な人生経験や知識、技能を生かす機会が不足</p> <p>学習内容の充実</p>	<p>児童、生徒との異世代交流</p> <p>ボランティア活動、地域社会活動に関する学習機会拡充</p> <p>個人学習に対する情報提供と援助</p> <p>高齢者学級</p> <p>町民文化祭</p> <p>各種生活講座</p> <p>地域生活学級</p> <p>図書貸出・移動図書館</p>	<p>ほぼ計画どおりに実施されている</p> <p>ボランティア活動、地域社会活動については自主的な形で行われている</p> <p>個人学習への情報提供はあまり行われていない</p>	
<p>各市区老人クラブ 19団体、665名</p> <p>生涯学習指導者登録</p> <p>福祉センター、健康づくりセンター</p> <p>各市区会館利用</p> <p>指導者育成講座</p> <p>学習条件整備</p>	<p>高齢者人口の割合からすると老人クラブへの加入者が少ない</p> <p>指導者、リーダーの不足</p> <p>施設と安らぎの場が充分でない</p>	<p>各老人クラブの組織を充実して身近な場所での学習、交流を工夫</p> <p>特色ある活動で加入促進を図る</p> <p>リーダー養成事業の拡充が必要</p> <p>学習施設の整備が必要である</p>	<p>地域ボランティア活動の推進</p> <p>高齢者学級と老人クラブ連合会との相互協力</p> <p>高齢者の知識や技能の活用</p> <p>指導者養成講座</p> <p>生涯学習指導者登録</p> <p>学習推進計画の策定</p> <p>学習推進体制整備</p> <p>学習に関する情報の提供</p>	<p>老人クラブは現状でよいのでは</p> <p>人生のベネファンであり、特設の講習等は不要ではないか</p>	

第6期(1) 芸術文化

現状	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で振り返っての評価
<p>町民文化祭</p> <p>巡回小劇場</p> <p>道民芸術祭 渡島地方祭</p> <p>読書感想文・感想画コンクール</p> <p>図書貸出し・移動図書バス運行</p> <p>スポーツ・文化表彰</p> <p>各種講座</p> <p>福島町文化団体協議会 加盟団体 20団体 会員 254名</p> <p>福島横綱太政保存後援会</p> <p>生涯学習指導者登録</p> <p>福祉センター利用、学校開放</p> <p>図書室利用</p> <p>移動図書館バス利用</p> <p>学習条件整備</p>	<p>郷土の文化を伝えるべく、積極的な学習の機会が少ない</p> <p>発表・展示の機会が少ない</p> <p>図書室の利用が少ない</p> <p>会員が減少している</p> <p>活動状況の情報が提供されていない</p> <p>学習内容により町外からの指導者に頼っている</p> <p>移動図書館の利用が少ない</p>	<p>芸術鑑賞の機会を拡充</p> <p>図書利用者のニーズに応える</p> <p>団体活性化のための他町村との交流が少ない</p> <p>地域での指導者の養成が必要</p> <p>利用者のニーズを把握する必要がある</p>	<p>町民文化祭</p> <p>芸術鑑賞</p> <p>他町村との文化交流</p> <p>図書貸出し・移動バス運行</p> <p>巡回小劇場</p> <p>道民芸術祭 渡島地方祭</p> <p>読書感想文・感想画コンクール</p> <p>スポーツ・文化表彰</p> <p>各種講座</p> <p>他町村との交流事業</p> <p>生涯学習指導者登録者の交流</p> <p>図書を紹介</p> <p>移動図書館バス体制整備</p> <p>アンケートの実施</p>	<p>継続中</p> <p>小学生向け芸術鑑賞事業は継続中</p> <p>四町交流は継続中</p> <p>継続中</p> <p>道補助の巡回劇場は財源確保が課題</p> <p>継続中</p> <p>継続中</p> <p>継続中</p> <p>継続中</p> <p>四町交流は継続中</p>	

第6節(2) 文化財

領域	施策の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で繰り返しての評價
<p>・文化財保護伝承 ・理蔵文化財保存管理 ・町史研究講座</p> <p>学習機会</p>	<p>・郷土の歴史文化を伝えるべく、積極的な学習機会が少ない ・文化財保護に関する専門職員の育成がなされていない</p>	<p>・地域社会の知識、技術、情報を得られる学習機会が少ない ・文化財に対する意識が低く、承継のための学習機会が少ない</p>	<p>・郷土の歴史、伝統文化等の学習機会の充実 ・文化財の保護、伝承事業 ・地域と学校との連携を図る ・町史研究会 ・芸能発表</p>	<p>H21現在で繰り返しての評價 学習機会等の専門職がいなく、スタッフ不足により、新しい施策を打っていく体制にないが、「町史研究会」等の自主学習団体があることから、連携を強化することによって、広く一般市民に学習機会の提供ができる可能性がある。 理蔵文化財は、町内での参拝調査の機会を捉えて専門的な学習機会を提供できる。市民等の郷土資料や理蔵文化財等の展示や公開も大きな課題である。</p>	
<p>・町史研究会 ・松前神楽保存会 ・福島大神宮祭礼行列保存会 ・日符荒馬踊保存会 ・松浦七福神保存会</p> <p>団体育成</p>	<p>・会員が減少している ・活動状況の情報が提供されていない</p>	<p>・団体活性化のための他町村との交流が少くない ・地域単位にこだわらない組織づくり</p>	<p>・地域間の交流 ・他町村との交流</p>	<p>団体はそれぞれ努力しているが、年間を通じてとなると苦しい団体もある。 また、祭礼行列の定期的な公開や荒馬踊り少年団の強化が課題であろう。</p>	
<p>・松前神楽保存会は後継者が育っている ・地域における民俗文化は活動が少ない</p> <p>指導者育成</p>	<p>・演者、指導者が高齢化している</p>	<p>・郷土芸能継承のための後継者育成が必要</p>	<p>・伝統芸能を継承する学習機会の提供</p>	<p>団体によって指導者が高齢化している場合がある。活動を円滑に進めるため、地域にゆかりのある町職員の協力を期待したい。</p>	
<p>・福祉センター利用</p> <p>市民啓蒙</p>	<p>・文化財に関する情報が少ない</p>	<p>・文化財に係る広報活動が必要</p>	<p>・既存施設を活用した資料館的な常設展示場の設定</p>	<p>町民文化祭等に定期的な展示をするのも効果的と思われる。</p>	

第7節(1) 社会体育 (幼少年・青年)
 振興の現状

課題	問題点	関係教育機関との連携強化が必要である ・親子を対象にした事業・行事を推進する必要がある ・大人の目からではなく子ども目で見えていくことが必要 ・学校との連携・協力体制づくり	具体的施策 ・キッドピクス教室 ・ジュニアスイミングスクール教室 ・渡島西部四町交流事業 （野球・サッカー・剣道） ・少年少女フットサル大会 ・少年少女バスケットボール大会 ・ミニテニス教室 ・町民水泳大会 ・町民ソフトバレーボール大会 ・渡島スポーツフェスタ ・南北海道駅伝競走大会 ・町民なわとび大会 ・のびのび健康教室 ・雪上レクリエーション大会 ・パークゴルフ大会	H21現在で振り返っての評価 ・指導中心の職員不在のために、キッドピクスやミニテニス教室などの継続的な教室ができない ・「大会」等の一日事業が多くなる傾向にある。
対象人口 幼少年：0～14歳 656名 青年：15～39歳 1,445名 ・少年、少女教室及び大会 ・四町交流事業 ・町民ソフトバレーボール大会 ・南北海道駅伝競走大会 ・渡島スポーツフェスタ	・保育所、幼稚園、学校との連携不足 ・幼児を対象としたスポーツ、教室が少ない ・バスケット、フットサル等の大会は人数が少ない学校が参加できないので見直しを考へるべき			
福島町少年体育連盟 6団体 会員数86名 福島町野球スポーツ少年団 福島町剣道スポーツ少年団 福島町空手道スポーツ少年団 福島町白面野球スポーツ少年団 福島町相撲スポーツ少年団 福島町サッカースポーツ少年団	・子ども達の選択できるスポーツ・団体の拡充 ・少子化により会員数が減少しており、団体の維持も困難となりつつある	・団体の会員数増加に向けた独自活動必要 ・PRが重要 ・団体増加のための指導者の育成が必要 ・団体種々の会員増に向けた努力のほか、スポーツの奨励必要 ・選択の出来るスポーツの拡充	・関係団体との連携強化、交流の推進 ・新団体開設のための他のスポーツ指導講習会等への参加 ・団体の交流 ・各スポーツの初級講習の実施 ・父母への働きかけ ・総合型スポーツクラブの推進	具体的施策のほとんどが実施されていない。 少年団等の育成に手が回らないのが実情である。
体育指導委員 ・各クラブ指導員	・指導者不足	・指導者、協力者の養成が必要	・指導の場の設定	指導者はそれぞれ努力している。
体育館を中心に社会体育施設利用		・各事業における指導者、協力者の確保	・指導者等の協力体制の推進	一部、冬期間で活動場所の確保に苦慮している団体がある

第7節(2) 社会体育(成人)

現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で取り進めている評価
<p>・対人口 20～64歳:3,476名</p> <p>・管内ソフトバレーボール大会 ・四町交流スポーツ大会 ・町民ソフトバレーボール大会 ・南北海道駅伝競走大会 ・渡島スポーツフェスタ</p> <p>学習機会</p>	<p>・個人参加できる事業が少ない</p>	<p>・ニーズの把握 ・個人参加できる事業展開 ・町民個人ができるスポーツの拡充 ・参加者が固定しており、学習内容、学習方法の改善とPR不足</p>	<p>・南北海道駅伝競走大会 ・渡島スポーツフェスタ ・管内ソフトバレーボール大会 ・町民ソフトバレーボール大会 ・四町交流スポーツ大会 ・リフレックジュニアアクティブクス教室 ・パークゴルフ大会 ・トレニング教室 ・雪上レクリエーション大会 ・のびのび健康教室 ・町民なわとび大会</p>	<p>・初年(前例)積極的な施策にとどまっている。 「個人参加」を課題や問題に挙げているが、施策が具体化されていない。</p>
<p>・福島町体育協会 16団体 福島町野球協会 福島町相撲協会 福島町陸上競技クラブ やまゆりママさんバレーボール部 福島剣道愛好会 福島スキー愛好会 福島卓球愛好会 パドミントン愛好会 ソフトテニスクラブ 福島バスケットボールクラブ 南北海道太極拳協会 福島町ゲートボール協会 ソフトバレーボールクラブ 福島町パークゴルフ協会 福島町フットボールクラブ 福島町グリーンクラブ</p> <p>団体育成</p>	<p>・各種団体への助成見直し ・スポーツ大会の独自開催の奨励</p>	<p>・各団体の活動実績の把握及び支援等</p>	<p>・関係機関、団体の実態把握、相互協力</p>	<p>・人数が減少して廃止、休止している団体(スキー、卓球、テニス等)がある。 ・高齢化の波の中で、残っている団体はよく粘っている。</p>
<p>・体育指導委員 ・各クラブ指導員</p> <p>指導者育成</p>	<p>・指導者不足</p>	<p>・指導者、協力者の養成が必要</p>	<p>・指導の場の設定</p>	<p>・体育指導委員の活動方法について何らかの工夫が必要ではないか。</p>
<p>・体育館を中心に社会体育施設利用</p> <p>施設利用</p>	<p>・充分利用されていない</p>	<p>・有効利用のためのPRに努める</p>	<p>・各種大会の推進</p>	

第8節 社会教育施設

施設の種類	施設の現状	問題点	課題	具体的施策	H21現在で振り返りの評価
福祉センター等	高齢者学級等の利用 111回 1,084名 各種生活講座 51回 601名	町民の多様な学習要求に対応する施設整備が必要 町内会館等を活用し、住民相互の連携、地域の活性化を図るための施設整備が必要	福祉センター、町内会館等社会教育施設の利用・運営の工夫改善 町民の生活実態と学習要求についての意見、要望等を取り入れ、地域の課題に対応した施設整備の整備拡充	利用、運営形態にあまり変化は見られない。 施設整備は現施設の維持補修程度である。 H17に青函トンネル記念館がオープンし、営業外の時間帯は100人連続まで利用可能で、実際に活用している。	平成20年度から民間に委託しているが、そのことによる利用者からの不平等はない。 利用時間等の検討はなされていない。
総合体育館	体育協会加盟団体など利用	スポーツ活動の拠点として有効に機能させるため、管理・運営について改善が必要 (利用時間の延長など：指導者配置)	利用者、関係機関等の連絡調整	利用者、関係機関等の連絡調整	芝管理について課題があったが定期的な整備によって改善し、利用者からも好評を得ている。 利用団体が主体的に大会等を開催している部分もある。
パークゴルフ場	パークゴルフ協会	豊かな自然環境を生かした三世交代交流スポーツ場として野外活動施設の管理・運営について改善が必要	利用者、関係機関等の連絡調整 利用者の利便を図るための施策	住民の要望に匹敵する、敷地の拡充 開業日・開業時間の弾力的対応	15年度から夜7時まで開業時間の延長を試み、16年度に旧練習場を改修して図書室に。また17年度後半からは可着資格者を雇用している。 移動図書については、人(児童生徒)を図書室に運ぶ従来の方法から、平放へ図書を運んで開貸・貸出ができる方法へと改善した。 20年度実績は242日開業、17,280冊の貸し出し、9,193名の利用者があり、地域の図書室として認知され、定着している。
図書室	図書貸出し(15年度実績) 開業 231日 貸し出し 8,064冊 利用者 2,721名	住民の多様な要求に対応した利用しやすい図書室を推進するための管理・運営体制を図る必要がある	住民の多様な要求に対応した利用しやすい図書室を推進するための管理・運営体制を図る必要がある	町民プールの利用者は、15年度6,717人に対し20年度4,981人と34%減少している。特に17年度から急激に2割強の減少となっている。 振り返ると、9月末に行っていた「水泳大会」が行われなくなることが利用者減少の一因ではないか、とも思われる。 チニスコートについては利用がほとんどなく、利用団体となっていたチニスコラブも解散し、コートは草が生えている状態。コートの管理を団体任せとしていた判断は結果的に正しかったのか。 ゲートボール場は主に高齢者の団体が利用管理している。	町民プールの利用者は、15年度6,717人に対し20年度4,981人と34%減少している。特に17年度から急激に2割強の減少となっている。 振り返ると、9月末に行っていた「水泳大会」が行われなくなることが利用者減少の一因ではないか、とも思われる。 チニスコートについては利用がほとんどなく、利用団体となっていたチニスコラブも解散し、コートは草が生えている状態。コートの管理を団体任せとしていた判断は結果的に正しかったのか。 ゲートボール場は主に高齢者の団体が利用管理している。
その他	町民プール チニスコート ゲートボール場 新緑公園グラウンド	郷土の資源と特性を生かした研究開発・生涯学習の施設整備 各地区における高齢者の自主活動を促進するため町内会館等の利用の奨励と条件整備が必要	町内各団体の施設の有効利用	町民プールの利用者は、15年度6,717人に対し20年度4,981人と34%減少している。特に17年度から急激に2割強の減少となっている。 振り返ると、9月末に行っていた「水泳大会」が行われなくなることが利用者減少の一因ではないか、とも思われる。 チニスコートについては利用がほとんどなく、利用団体となっていたチニスコラブも解散し、コートは草が生えている状態。コートの管理を団体任せとしていた判断は結果的に正しかったのか。 ゲートボール場は主に高齢者の団体が利用管理している。	町民プールの利用者は、15年度6,717人に対し20年度4,981人と34%減少している。特に17年度から急激に2割強の減少となっている。 振り返ると、9月末に行っていた「水泳大会」が行われなくなることが利用者減少の一因ではないか、とも思われる。 チニスコートについては利用がほとんどなく、利用団体となっていたチニスコラブも解散し、コートは草が生えている状態。コートの管理を団体任せとしていた判断は結果的に正しかったのか。 ゲートボール場は主に高齢者の団体が利用管理している。

